カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！
TEL
03-
5950-1771

実技実習は大工技術だけじゃない！

2年次 前期に「各職」実習　7職種を体験

東京建築カレッジは、大工養成校ではありませんが、大工技術を通して建築の基本を習得する教育機関です。このため、実技実習のほとんどは伝統的な大工技術の学習です。しかし、2年次前期（5～7月）には7職種の「各職」実習を実施しています。本校の母体、東京土建一般労働組合に所属する職人さんが、仕事へ誇り、技術・技能の継承への思いを語りながら指導します。

左官の授業は全2回、初回はモルタルを作り、ラスを張った壁に塗る実習を行ないます。（右写真は、5月25日の授業の様子）モルタルを鏝（こて）に載せるのが難しい。研修生は床面にボタボタと、モルタルを落としながら、壁塗りに取り組みます。

「各職」の実技実習は、どの職種も初めて体験するものばかりなので、研修生に大変人気のある授業です。

今年度の初回、「型枠・鉄筋」では業界の新人教育教材を使って座学を受けた後、図面を見ながら鉄筋を折り曲げ、型枠を組み立てる実習を行ないました。研修生の中には、普段の仕事で部分的に経験している人もいて、クラスメイトにテキパキと指示する姿が印象的でした。

「左官」では、架台にフェルトとラスをタッカーで貼り下地を製作。そして、セメントと砂、水をかきまぜ、モルタルを作ります。次に、鏝（こて）で鏝板に載せたモルタルをすくい上げ、壁下地に塗っていきます。まず鏝にモルタルを載せるのが難しい。先生のカッコイイ動きを見ながらコツをつかもうと、集中して実習に取り組んでいました。5月31日には漆喰壁、京壁に挑戦しました。

第25期生〔2020年4月入学生〕

第1回入試は9月11日（水）

ポスター掲示、パンフ配布にご協力を

東京建築カレッジの第25期生（2020年4月入学生）の募集活動が始まりました。「建築の世界で専門技術・技能者として働きたい」、「人と自然にやさしい木造建築の真髄（しんずい）を学びたい」と考える若者はたくさんいます。そのすべてに建築カレッジの魅力を伝え、新しい仲間になっていただきたいと思います。そこで、これまで以上に、入学生募集の宣伝に力を入れます。ポスターの掲示や学校紹介パンフレットの配布にもご協力をお願いいたします。お気軽にご連絡下さい。

第1回入学試験は9月11日（水）、午前9時30分から。学校説明会は8月29日（木）に開催します〔午後2時から・午後7時からの2回〕。どちらも池袋校舎で。入学願書の締め切りは9月5日（木）です。

第2回入試以降の日程は募集要項をご参照ください。本校のウェブサイトに掲出しています。

2019年度「各職」実習の日程

①	5月18日（土）	型枠・鉄筋
②	5月25日（土）	左官　第１回目
③	5月31日（金）	左官　第２回目
④	6月　7日（金）	水道設備
⑤	6月14日（金）	襖（ふすま）・クロス
⑥	6月28日（金）	塗装
⑦	7月　6日（土）	タイル
⑧	7月13日（土）	板金

タイル実習は、本校の渡辺義久理事長が講師です。

森林大国の豊かさ ＆ 木材の生産・流通の最前線を学ぶ

第24期生「飯能・秩父宿泊研修」 5月24日（金）～25日（土）

1年生の授業から

「日報」の一部を紹介します。

プレカット工場で

本校では入学して最初の2ヶ月を終えた時期に「飯能・秩父宿泊研修」を実施しています。木造建築の生産・流通の現場を実地見学すると共に、研修生同士や、先生方と交流を深めることが狙いです。参加者の日報の一部を紹介します。

○　○

初のプレカット工場見学。ワクワクしました。▼プレカットされた材木を作業員の方がヤスリで面取りをしていたのが印象的でした。▼いつも授業では手で刻んでいるものが機械ではあっという間に出来て驚いた。

▼（ストックヤードや原木市場で）木材の安さに悲しくなりました。▼感想交流で、面白かった、つまらなかった、と言い合うレベルではなく、若者には日本の林業の現実を冷静に観察してもらいたい。▼東京大学の演習林では、多種多様な樹木や植物が自然の中で育っていることを身体で感じることができました。▼大変にぎやかで楽しい時間を過ごすことができました。

吾野原木センターで

技能を持たない芸術家より、創造できる職人たれ。

2年生の授業から

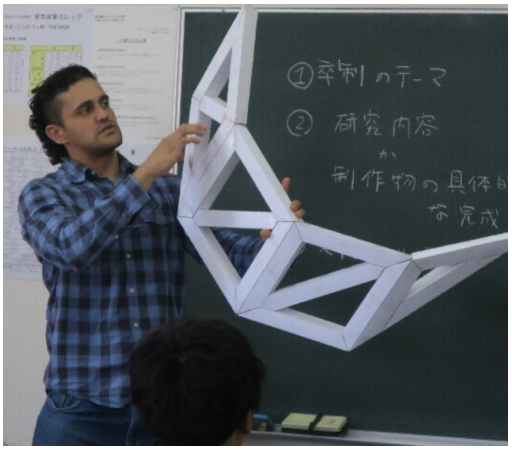
第23期生「卒業制作」始動

木製すべり台に挑戦する班も。公園で参考資料を実測中。

ある都立工業高校の玄関で、立派な一枚板に手書きされた「技能を持たない芸術家より、創造できる職人たれ。」というメッセージに出会いました。建築科で特別授業を行った建築家が、未来を担う若者たちへ願いを込めて贈呈してくれたものだそうです。建築カレッジの「卒業制作」はまさにこのテーマで行なわれます。日々働きながら、且つ、難度の高い規矩（きく）術の課題演習と格闘しながらの卒制です。一生の記念になる自主学習がいよいよ本格化します。

5月10日（金）、第23期生の「卒業制作ゼミ」第2回目が行われ、着想とテーマを発表しあいました。その多彩さが今年の特徴でしょうか？

施工体験付きの伝統建築の研究（3グループ、題材はそれぞれ異なる）では、「住吉大社の太鼓橋」に挑戦する班があります。構造力学の授業で学んだアーチ構造への興味が着想の背景にあるようです。

一方、表現ソフトを駆使したリフォームプランのわかりやすい提案（お施主様や各工事専門職との認識のズレを是正することに力点）は、中小工務店のお悩み解決の提案とも言えます。また、数種類の構造体を組み合わせて作る木製ドーム、子どものための木製大型遊具、「快適な住環境をすべての人に手軽に」「大工のいない世界を」というキャッチーな問題意識を交差させユニット型住宅の新展開を志向するグループも意欲的に打ち合わせを重ねています。

数種類の三角形を組み合わせた構造体でドームの構造と設計を研究する人も